

## 府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	元気いっぱいサポート事業
事業実施者	元気いっぱいサポーター、健康推進課
事業目的	市が募集する元気いっぱいサポーターの健康づくりを推進すること、またその健康づくりの取組が広がることで人と人とがつながるきっかけになることを期待して実施するもの。
事業内容	からだ★スキャン大測定会(複数の機器で体力測定をして自身の健康状態を知り、健康づくりに関心を持ってもらう)、健康応援ウォーキングマップを活用したノルディックウォークイベント、元気いっぱいサポーター養成講座など
事業目標	健康づくりに必要な知識や技術を、元気いっぱいサポーターが中心になって地域全体で共有し合いながら、地域のつながりを強化していくこと。

	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。
1 評価結論	市民と市が密にコミュニケーションを取りながら課題や目的の共有ができています。相互が主体性を持ち、それぞれの強みを活かしながら事業を実施している。今後、課題として捉えている点の検討を進めることで、更なる発展が期待できる。
2 事業について	市民と市と一緒に模索しながら作り上げている事業で、市側が市民の意見を積極的に取り入れるなど、お互いの強みを活かしながら事業を実施している。
3 協働の広がりの可能性	事業の進め方が計画的で、広がりを見せている。課題も共有できており、今後の展開も考えられているので、更なる事業の発展を期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	市民と市がそれぞれ主体性をもって事業を実施できている。また、事業の価値を捉え、積極的に推進する様子が伺え、評価できる。
5 まとめ	市民と市が密にコミュニケーションを取り、課題と目的を共有し、お互いの強みを活かしながら双方が主体的に事業を実施している。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

## 府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	ごみ減量・3R推進大会
事業実施者	府中市ごみ減量推進課、府中市自治会連合会
事業目的	市民・事業者・行政が一体となって、ごみ減量・3Rの推進を図ること。
事業内容	ごみに関する講演やディスカッション、ごみ減量の意識高揚を目的とした式典の実施
事業目標	市民・事業者・行政が一体となって、ごみ減量・3Rの推進を図ること。

1 評価結論	D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。  相互に情報共有をしながら検討を進めるとともに、従来の枠にとらわれず一般市民の参加や若い世代を巻き込むなど、新たな方策を検討してほしい。また、反省会を開催するなど、目的や課題を共有できるようなしくみ作りを協働ですすめてほしい。
2 事業について	事業の目的が変わってきているなかで、コミュニケーションを密にしながら実施方法の見直しを検討する必要があり、目的や課題を共有できるようなしくみ作りを協働ですすめてほしい。特定の主体から一般市民の参加を広げていくとともに、ファミリー層や子どもなど、若い世代を巻き込みながら実施すればよりよい事業になる。
3 協働の広がりの可能性	企画立案が市主導になっていることから、実行委員会形式で実施する等、検討を進めてほしい。特定の主体に捉われず、例えば子ども会に主体的な参加を促すなど、より若い世代を巻き込んでいくことで協働の広がりを期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	市が認識している課題を共有し、実施者や参加者のあり方を見直して進めていただきたい。お互いの強みを活かしながら相乗効果を発揮して目標を達成できるよう、実施方法を検討してほしい。
5 まとめ	市民と市の情報共有が不足している。事業が転換期を迎えている中で、コミュニケーションを密にしながら課題や目的を共有し、より多くの市民を巻き込みながら事業を実施してほしい。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

## 府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	福祉まつり
事業実施者	府中市社会福祉協議会、府中市地域福祉推進課
事業目的	広く市民に福祉に対する理解と支えあいを呼びかけ福祉団体間の交流を図る
事業内容	福祉の関係団体による活動PRや体験コーナー等により理解と交流を深める
事業目標	福祉意識の醸成を図り支えあいのまちづくりを促進する

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。  目的や課題を共有し、対話を通じて十分なコミュニケーションを図り見直しを実施するとともに、情報共有を密にするなど、昨年よりも努力して協働のまちづくりに取り組んでいる。企業や中間支援組織等を活用することで、更なる事業の広がりも期待できるため、好事例としてより一層期待していきたい。
2 事業について	情報共有を行うことで、事業内容についてよりよいものに改善するとともに、参加者間の情報共有の場を作るなど、日常関わらない人同士のつながりの場となるような取組を始めるなど、事業内容としても協働の視点からも評価できるものである。 会場を府中公園のみだけでなく、企業を活用するなど様々な場所を実施することにより、更なる広がりが期待できる。
3 協働の広がりの可能性	中間支援組織など協働のコーディネーターや企業を活用し、たとえば「障害者の就労支援」など、テーマを設定することで、参加者間の更なる協働の広がりも期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	対話を通じ、双方課題を共有するとともに情報共有をしながら課題解決や更なる事業の発展に向けて取組を進めているため、期待ができる。
5 まとめ	参加団体のメンバーを実行委員とすることで現場の意見を取り入れるとともに、情報共有の場を設定するなど、対話を通じてよりよい事業となるよう取組を進めており、更に効果的な協働事業へと発展することが期待できる。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

## 府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	姉妹都市佐久穂町森林間伐体験事業
事業実施者	東京武蔵府中ロータリークラブ、府中市環境政策課
事業目的	府中市民である小中学生に、地球温暖化防止対策の一環として、森林を整備することの大切さを知ってもらう
事業内容	姉妹都市である佐久穂町において、一泊二日で森林間伐体験や自然体験を行う
事業目標	事業を通じて、子どものうちから地球温暖化対策について意識してもらえるようになること

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。
	目的や課題の共有をはじめ、役割分担も明確であり、それぞれの特性も生かしている。信頼関係も構築できており、協働のあるべき姿となっている。 今後、参加者が各学校等で報告会を行うなど、教育委員会とも連携することで、更なる環境の意識啓発につなげるなど、協働事業としても更なる発展が期待できる。
2 事業について	府中の子どもたちが自然環境を体験し、環境について考えることは将来にわたる見えない財産である。リピーターを活用するなど後継を育成している点が評価できる。
3 協働の広がりの可能性	参加者が自由研究として当事業を取り上げたり、それぞれの学校で報告会を開催するなど、教育委員会と連携することで、更なる協働の広がりが期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	協働の広がりに係る取組を市民と市が検討いただくことで、更に期待できる事業となる。
5 まとめ	課題等共通の認識を持ち、市は黒子役に努め、市民のノウハウを生かしながら役割分担のもとで事業を実施している。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

## 府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	ラグビーのまち府中推進事業
事業実施者	府中市政策課、ラグビーのまち府中推進委員会
事業目的	地域資源としてのラグビーを活用することで、府中市の地域活性化を図る。
事業内容	RWC2019、東京2020大会(7人制ラグビー)の開催を契機に、ラグビーを活用し、地域活性化、スポーツ・観光振興、子どもの健全育成等を総合的に推進する。
事業目標	ラグビーを通して、「地域活性化」「スポーツ振興・健康増進」「観光振興・市民協働」「子どもの健全育成・教育」を推進し、本市の持続的発展を図る。

1 評価結論	<p>B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。</p> <p>1つの目標に向かって、各団体が持っている専門性を理解・共有し、協働しているため、様々な主体が参加していて短期間でかなり協働がうまくいっている。</p> <p>一方、事業目標が4つあり、全体がまとまりきれていない印象を受けることから、主となる目標があるとより良い事業となるとともに、中間支援組織等の協力や、市民ボランティアを活用することで、更なる市民意識の向上が期待できる。</p>
2 事業について	<p>事業目標が4つあるが、事業ごとに主となる目標を設定すると、より明確となり、更なる発展が期待できる。</p> <p>また、スポーツを通じた地域活性化には大きな可能性を感じると共に、府中はラグビートップチームが2チームもある恵まれた環境のため、2019・2020に向けて発展の可能性は大きいと感じる。</p>
3 協働の広がりの可能性	<p>ワールドカップや、オリンピック・パラリンピックなど、目標は明確であり、協働したいと考えているところは多いと思われる。現在の枠にとらわれず、市民参加や協働といった視点など、協働のパートナーを増やすことにより更なる可能性の広がりの可能性を感じる。</p> <p>また、将来は自立(法人化)に向けての大きな目標を持っており、今後の活動が期待される。</p>
4 意見交換会を踏まえて	<p>事業目標が4つあり、ややまとまりに欠ける面があるが、1年という短期間でこれだけ展開できているのは非常に素晴らしいものである。今後、市民参加や、市内部への横断的な協働が期待される。</p>
5 まとめ	<p>1つの目標に向かって、各団体が持っている専門性を理解・共有し、協働で取組を進めている。</p> <p>また、ワールドカップ、オリンピック・パラリンピックなど目標が明確で、協働に対する捉え方もしっかりしている。</p> <p>現在の協働の枠にとらわれず、中間支援組織や市民ボランティアの導入など、協働のパートナーを増やすことで、市民意識の向上や、更なる協働の広がりの可能性が期待できる。</p>

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。